

# 学校評価についてお知らせします。

## ▶教育委員会平成 26 年度学校評価

平成 19 年 6 月の学校教育法の改正により、「学校評価の実施による学校改善」と「学校の情報の積極的な提供」が義務づけられ、学校の教育水準の向上と地域に開かれた学校づくりが求められています。

学校評価の実施手法には、『自己評価（教職員）』『学校関係者評価（保護者・地域住民など）』『第三者評価（外部専門家など）』の 3 つがあります。今回は、昨年度に各学校が行った『学校自己評価』結果について学校別にお知らせします。

<b>【評価基準】</b>	A = 達成できた (85 点以上)	B = だいたい達成できた (60 ~ 84 点)
	C = 達成状況が不十分 (40 ~ 59 点)	D = 達成できなかった (39 点以下)

### (1) 黒坂小学校 (抜粋)

評価項目	具体項目	目的の達成状況	自己評価
学力の向上	言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>式と図の関連を考えようとする児童が増えた。</li> <li>ノート作りが的を得たものになりつつある。</li> <li>式と図などとの対応が課題。自分で図や式を書きながら、説明できようなどころまでは至っていない。</li> <li>ほかの児童への質問や言い換えなどがまだ見られない。</li> <li>活用力にまでいく授業が少ない。</li> </ul>	A
	指導と評価の一体化の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「かわっこ学び大作戦」が児童にも教師にも定着してきた。</li> <li>聞くことはかなり定着してきている。</li> <li>ほめようとしているのがよく分かる。</li> <li>児童が進める授業づくりへの道のりは長い。教師主導になりがちだった。高め合い・深め合いにおいては、方法論、仲間づくりに課題が残った。</li> </ul>	A
体験活動	豊かな体験活動・交流活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援ボランティアの方を有効に活用できた。まだ、地域にはその道の達人が多いので、活用を図りたい。</li> <li>日野高との交流は意図的に計画され、順調に進行できた。感謝祭も成功したと感じる。</li> </ul>	A
人権教育・特別支援教育	人権教育・特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の話を聞く姿勢ができてきており、Q-U（学級生活の充実度、学校生活の意欲をはかるアンケート）の活用により学級経営を見直し、学級のルール作りや児童を生かす場を設けることができた。さらなる個別の指導計画の活用を図る。</li> <li>自分中心、言いつばなしが許されている限り、全員発言、児童が進める授業は難しい。学級により差がある。</li> </ul>	B
家庭・地域の連携	基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>廊下歩行・下校時の集まりはよくなってきた。</li> <li>アットホームデーファミリー習慣の意味を学校でも児童にもっと指導する必要がある。家庭の協力も必要である。</li> </ul>	B
	地域との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の良さに触れさせる学習はかなり充実していた。</li> <li>地域の人を取り込んでの学習はまだ不十分である。</li> <li>地域行事への参加の意義は大きい、参加の実態にはかなりの差がある。PTA 活動も同じ。</li> </ul>	A
	家庭学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>課業日の学習は質的にも量的にも高くなってきた。</li> <li>進んで学習しようという意識が弱い。家庭の協力も二極化状態にあり、学習習慣の必要性の理解が必要である。</li> </ul>	B

(2) 根雨小学校 (抜粋)

評価項目	具体項目	目的の達成状況	自己評価
学力の向上	指導方法の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が楽しい」と答えた児童が 90%以上に、また、「先生がわかりやすく教えてくれる」と答えた児童がほぼ 100%近くに達している。</li> <li>算数については、2年生以上の学年で TT(チーム・ティーチング)指導や少人数指導を行い、個に応じた指導に努めた。また、国語においても、必要な学年(2・3・4・6年)で TT 指導を行い、個に応じた指導に努めた。</li> <li>「質問や意見を言うことがある」と答えた児童が 70%近くに達しているが、さらに工夫し取り組んでいく必要がある。</li> <li>LD(学習障害)等専門員相談活動、通級指導など、専門機関と連携し支援を要する児童のスキルの向上が図れた。</li> </ul>	B
	学習規律の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>「先生、友だちの話をよく聞いている」と 95%近くの児童が答えている。また、「ノートに自分の考えなどを工夫して書いている」児童が 75%近くいる。</li> <li>児童対象のアンケート結果から、「先生はほめたり、励ましたりしてくれる」と感じている児童が 80%以上に達している。</li> </ul>	B
豊かな人間性の育成	人権教育・特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校が楽しい」「困った時に話ができる友だちがいる」「周りの人の気持ちを考えながら生活している」と答えた児童が 90%近くいる。</li> <li>「自分にはいいところがある」と答えている児童が昨年度同様 70%近くいる。今後も肯定的評価などを取り入れながら取り組み、向上を図っていきたい。</li> </ul>	B
	豊かな体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いろいろな活動で友だちと協力して活動するのは楽しい」と答えた児童が、90%以上に達している。</li> <li>「米作り」「林間学校」「カヌー教室」「木のおもちゃ作り」「芸術宅配便」「スキー教室」「保育所や他校との交流」など、豊かな体験活動を推進することができた。その中で、児童が計画運営する場や振り返りの場を設定することができた。</li> <li>月 1 回の色別遊びを児童は楽しみにしており、縦割り活動で、児童相互のコミュニケーションが図られている。</li> </ul>	A
家庭・地域の連携	基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校のきまりや約束が守れている」と 80%の児童が答えている。</li> <li>70%の児童が「テレビやゲームの時間を決めて守れている」と答えている。</li> <li>PTA の生活向上アンケートの結果では「テレビを 2 時間以上見る」と答えた児童の数が昨年より 10%以上減少している。</li> </ul>	B
	家庭学習の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭学習をきちんとしている」と答えた児童が 90%以上に達し、昨年度より 10%近く増えた。また、「様子を聞いたり、励ましたりしている」とほぼ 100%近くの保護者が答えている。</li> <li>学年に応じた学習時間が定着している児童の数は増加傾向にあるが、そうでない児童もいる。</li> </ul>	B
	地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域行事に参加している」と答えた児童が 80%おり、「参加させる」と 87%の保護者が答えている。</li> <li>福祉委員会が中心となり、福祉施設の訪問を行い、お年寄りとの交流を行った。</li> <li>地域の方に、「もちつき大会」や「田植え」、「稲刈り」などに参加協力していただいた。</li> </ul>	A